

起因物、事故の型：金属材料 - 動作の反動無理な動作の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	業種小 コード	労働 者規 模
1	14～ 15	工場内で搬入物の鉄パイプの束を台車にのせる際に、普段は腰の負担を考慮し屈伸して運ぶが他の搬入物もあった為そのスペースもなく、前屈の状態を運ぶことを強いられ、想定以上の負荷が腰に掛かって腰痛となり、悪化して椎間板ヘルニアとなった。	29	11209	30～ 49
1	17～ 18	本社工場内に於いて、鋸盤で切断されたパイプをパレットより下ろす作業（10kg～20kg、10本位）をした後、左手が痛み出した。以前に靭帯の損傷をしており、同じ所が痛んだ。筋肉の方は完治しているので、数日間は左手を使わないようにとの診断を受けた。	18	11209	30～ 49
1	9～ 10	鉄骨加工場において、鉄製階段を作製中、高さ60cm程の高さより降りたところ、右足首に痛みを感じ負傷した。	63	11209	1～9
1	9～ 10	被災者はボデー課において車両ドアの納付運搬作業中、いつものようにライン上で完成したドア（約15kg）を工程から取り出し、台車へ積み込む作業でドアを持ち上げた際、右肩付近に痛みを感じた。	44	11502	1000 ～ 9999
1	16～ 17	作業場にて、普段より少し重い1.75kgの導波管を伸ばす作業をしている際、両足を踏ん張り、導波管を引っ張っている時に腰の周辺の筋を捻ってしまい、腰痛を引き起こした。	50	11109	100 ～ 299
1	6～7	当社資材置き場にて、パイプ（塩ビ製、直径9cm、長さ4m、三本括り、重さ20kg）を車の出入りの邪魔にならない所へ2人で移動させ、地面に下ろし終わり、立ち上がろうとしたとき、腰が痛くて立てなくなった。	29	30209	1～9
2	15～16	本社工場内に於いて、鉄骨加工作業中、一日中铁骨を持ち運んだため背中に痛みを感じ負傷した。当初は肉離れかと思っていたが、家に帰って	31	11009	1～9

		動けなくなり、翌日は日曜だったので、その翌日に病院へ行き診察を受けた。			
2	11~12	1階倉庫で心電計の架台（重さ16kg）を組み立てている際、パーツ取り付けの為架台を裏返そうとして20cm程持ち上げたところ、腰部に激痛が走り動けなくなった。	37	80209	—
2	17~18	当事業場内の作業場において翌日配送分の荷物をトラック（2t）の荷台に積み込む作業を行っていた際、玄関ドア（幅約930mm×厚さ約60mm×高さ約2330mm、重さ約50kg）を1人で持ち、積み込んでいた時、持ち手を変えようとしたためにバランスを崩してしまい、支えようと急に動いた時に、右足を着くところを誤りひねってしまい、右足関節靭帯損傷となってしまったものである。	38	80209	—
2	9~10	取引先の工場内で、トラックの荷台からパイプ2~3本の束を受け取り、約10m離れた場所にある専用ラックまで運ぶ作業をしている時（5回目位）に、腰を痛めた。本人より、「腰から左足指先」まで、しびれを伴う痛さで、持病のヘルニアの症状だと思う」との報告を受けた。後日、医療機関に置いて「左膝蓋骨亜脱臼、左足関節炎」と診断されたため、上司が「腰を痛めたのではないか？」と確認したところ、本人が「腰ではなく膝」と主張し、労災であると主張している。	39	40301	10~29
2	8~9	倉庫でパイプから継手はずしていた時工具（スパナ）が滑った為バランスが崩れ右足に体重がかかり負傷した。	51	170209	1~9
2	7~8	トレーラーに乗務し、配送先に到着後、荷台上で積荷（異形棒鋼）の荷卸し作業中、積荷の段差に足をとられて体勢を崩した際に、右脚を捻り、右膝関節を痛めた。	48	40301	30~49
2	16~17	工場内で運搬台車に立て掛けてあったステンレス鋼（重さ30kg）の板材を両手で上へ引き上げた際、右手首に痛みを感じ、その痛みがその後に続いた為、業務終了後に病院に行った。	29	170101	50~99
2	16~17	工場内で運搬台車に立て掛けてあったステンレス鋼（重さ30kg）の板材を両手で上へ引き上げた際、右手首に痛みを感じ、その痛みがその後に	29	11209	100~

		継続した為、業務終了後に病院に行った。			299
3	15~16	被災者は構内において、大型トラックの荷台より他の作業員と2人でリヤバンパーを下ろし、2人でリヤバンパーを持ちながら構内のゴミ捨て場所まで行き、2人でリヤバンパー（スチール製、重さ約30kg）を捨てたとき、被災者が体勢を崩し腰を痛めた。	56	40301	10~ 29
3	18~19	車検の整備工場内で車両整備のため、工具を使用しエンジン側面のボルトを外す作業中、狭いところに無理な体勢で手を入れようとしたため、右手首を捻り捻挫した。	23	11701	30~ 49
3	16~17	入社以来、プレス機による鉄板の加工作業に従事していた。主に7~8kgほど（重い物では15kg）の鉄板をプレス機に置き、プレスされた製品をプレス機から取り出して箱に入れる作業を繰り返していた。1日に2,000回程度この作業をしていたところ、だんだん腰が痛くなった。	29	11301	30~ 49
3	15~16	週に2回程度、シリンダーヘッドの全数検査業務があり、当日の検査作業を開始して間もなくシリンダーヘッド（約13kg）を持ち上げた瞬間、背中に痛みを感じたのでその日は早退をし安静にしていたが、翌日になっても痛みがとれず、胸椎・腰椎捻挫と診断された。	19	11701	500 ~ 999
3	21~22	会社の資材置場にて資材の整理中に、資材（ブラケット10本、約20kg）を右手で持ち上げた際に、バキッと音がして右肩に急激な痛みがはしり負傷した。	24	30209	—
3	20~21	試し用材料をプレスするため隣に移動させようと向かい合い2人で上げようとしたところ、腰を痛めた。当初はあまり痛くなかったため通常どおり仕事をしたが、夜に痛みが出てきた。	35	11209	10~ 29
3	12~13	派遣先工場内において、プレス設備で容器に入っている材料を持ち上げ、別の専用容器に材料を入れる作業を繰り返し行い、腰部を負傷した。	55	170101	500 ~ 999
3	16~17	工場南面塗装工事にて足場をかけている際、足場材を立てて持ったときに右腕にズキッと痛みを感じた。	66	30209	1~9

3	17~18	派遣労働者である本人は、就業場所であるプレス設備の近くで、容器に入っている1個当たり約1kg以下の材料5~10枚くらいを持ち上げ、別の専用容器に移し替える作業（以前から行われている標準作業）に従事していたが、仕事を休むようになり、後日に本人から、当該作業により腰部を負傷したと連絡を受けた。	55	11502	100 ~ 299
3	11~12	作業場で部品の締め付けを行う際に、部品を安定させようと左腕で丸い部品を抱き、右手で締め付け、圧力をかけたところ肋骨が折れた。	44	11209	50~ 99
3	16~17	現場へ向かう途中、トラックを運転している時に腰に痛みが出て動けなくなった。また、工場内で30~40kgの屋根材を中腰のまま両手を持ち上げて後方に振り返った際、急いでいたため勢い余ってバランスを崩し、腰を捻ってしまい腰痛を発症した。	28	11209	1~9
3	15~16	仕事の資材や道具を保管してある倉庫にて、使い終わった塗料の入っていた丸い空カン（20×20cm）を道具を使って踏み潰そうとした時、空カンが横にずれ、本人もバランスを崩して右方向に倒れ、右肘関節を脱臼した。	36	30209	1~9
5	14~15	敷地内の建物修繕中、足場パネル設置のため、当該パネル2枚を被災者が2枚持ったところ腰部を痛めた。	43	30201	10~ 29
5	16~17	旋盤作業時（雇製作中）に10kg程度の材料を雇に取り付けようとしたが内径が小さく入らなかった。作業中、材料を落としそうになりとっさに右手を伸ばしたが、重みで体勢を崩し腰を痛めた。	37	11303	50~ 99
5	16~17	旋盤作業時（雇製作中）に10kg程度の材料を雇に取り付けようとしたが内径が小さく入らなかった。作業中、材料を落としそうになりとっさに右手を伸ばしたが、重みで体勢を崩し腰を痛めた。	37	170101	100 ~ 299
5	10~11	締め機作業で円だしを行う際、足元に置かれていた円筒形の鉄材（直径1150mm、高さ100mm、厚さ6mm）を左足で押して移動させようとしたところ負傷した。	38	11209	1~9
	11~	当社の仮設機械センターにおいて、ブラケット足場台と単台約4.2kgを2			10~

5	12	個重ねて、所定の場所に連続して置く作業中、誤って手首を捻り、両手を捻挫した。	49	80401	29
6	8~9	作業車に足場部材の積み込み作業中、アンチと呼ばれる足場部材（1枚あたり重さ12~13kg）を4枚まとめて（計50kg位）肩の上に担ぎ上げるように勢いよく上げた瞬間に、腰に急激な力の作用が負荷され、激しい痛みを覚えた。	23	30209	1~9
6	15~16	資材置場での材料整理時に、足元の悪い場所で材料を受け取った際にバランスを崩し、右足を挫いて、右足踝にひびが入った。	19	30201	10~29
6	9~10	工場の2階で、台の上ののった軽自動車のフロントドアを、場所を移動させようと思い持ち上げた時、背中にブチッと言う音がして、急に息が苦しくなってきた。	57	11701	1~9
6	11~12	鉄クズを持ち込んだ時、車の後部座席から数個の鉄クズが入った荷物を2人で出しながら、応援の人へ渡していた。最後の荷物を持って車の外へ出ようとしたところ、たまたまFB（平板鉄）とLアングル（L字型の鉄板）の重なっている上を踏んでしまい、右足をグニャッと捻ってしまい、その場にへたり込んでしまった。	60	30301	30~49
6	10~11	事業所敷地内において、鋼管を地表より40cm位の高さまで持ち上げた際、腰に激痛を覚えたものである。	52	11209	30~49
7	10~11	配送先にて、通常業務である、車両に積んだ荷物の積載状態をデジカメにて撮影している際に、他のパレットを移動していたフォークリフトにより、誤って接触されたため、転倒して背中から首及び足首にかけて強打し、打撲を負ってしまったもの。	18	11301	30~49
7	11~12	被災者は、内装材の荷揚げ作業をしていた。トラックより1階、階段前に仮置きした断熱内壁枠（600×2500mm）を仮置き場所が狭いため、角度調整で直していた時にバランスを崩し倒れかかってきた枠を押さえて、枠の角を鎖骨部にあててしまい被災した。	29	30201	1~9
		工場塗装工程にて、620mm×520mm厚み3mm重量3キロほどの製品を			100

7	14~15	パレットから塗装するため治具に引っ掛ける際、作業自体に非定常作業はなかったが製品の大小があり疲労が蓄積され筋を痛めた。	48	170101	~ 299
7	9~10	基礎部X5-Y7、Y1-Y2間の捨てコンクリートの上で地中梁（小梁）の上筋D25L10.5m41.8kgを被災者を含め4名で配筋中、被災者と他の作業員1名とでD25の鉄筋を大梁の上に持ち上げた際、右肩に力がかかり右肩の腱を痛めた。	60	30201	30~ 49
7	14~15	工場内塗装工程にて620mm×520mm厚み3mm重量3kgほどの製品をパレットから塗装するため治具に引っ掛ける際、作業自体に非定常作業はなかったが、製品の大小があり疲労が蓄積され、筋を痛めた。	48	11209	50~ 99
7	13~14	縦走ラック作業場で出荷品を出庫しようとしている時通箱より箱に入ったモーターを1個、右手で指を一杯に広げて取り出した。その際中指付け根に痛みを感じた。	48	50101	50~ 99
7	14~15	取引先にて、ガソリンの地下タンクの残量確認作業中、地面にある地下タンクの蓋（マンホール小程度の大きさ）を開けようと中腰になり右手で引っ張り上げたところ、右腰に痛みを感じた。その時は歩ける程度だったため当日はそのまま仕事をし、帰宅した。その晩、夜中にトイレに行こうと起きたところ、激しい痛みで歩けなくなった。全く動けない状態が続いたため会社を休み、少し歩ける状態になった。	47	80204	10~ 29
7	1~2	26?ルート（2工区）立坑ライナープレート6段目（G?-3.5m）設置作業時において、クレーンにより地上から吊下されたライナープレート（38kg/枚）を設置作業をしている者に手渡しをする際によろめき、持っていたライナープレートを倒しそうになった所を咄嗟に押さえた際に左手首を負傷した。	23	30199	1~9
7	11~12	棚板塗装作業中、金属製の棚板が掛っている塗装ラインから棚板を取り外して降ろすとき、左手首を捻った。	47	11209	10~ 29
7	11~12	会社内で荷物（鋼線）を出荷するため、軽トラックの荷台に鋼線束（1束約25kg）を積み込もうと持ち上げた際、腰に痛みを覚えた。	63	80101	10~ 29

7	5～6	物流センターの倉庫で、トラックを倉庫に接車して荷物を積み込んだあと、トラックと倉庫の境目に渡し板として使用していた鉄板を持ち上げて移動させようとしたとき、左腕を負傷した。	35	40301	30～ 49
9	13～ 14	工場内にて、機械加工の段取りをする際に、材料（鉄約15kg）を持ち上げた時、右肩に痛みを感じて、そのまま病院に行き検査したところ、右腕の腱の断裂との診断だった。	53	11301	1～9
9	14～ 15	棒材の束（1本5kg、7本）を床から切断機に上げるのにクレーン使用するが、棒材の束のひもが堅くクレーンのフックにかからないので、隙間を作るため棒材を持ち上げた時に、腰足の付け根を痛めた、1週間ほどガマンして仕事に出ましたが、痛いので病院に行った。	42	170101	10～ 29
9	13～ 14	太陽光パネルのアルミ枠の外し作業（倉庫内にて）において、パネルの表面に張り付いているアルミを手で勢いよく剥がした際に、手で先端を持たず中間部分を引っ張り、アルミ枠の端が反動で跳ね上がり、左目にそのアルミ枠の先端が当たり損傷。	47	170209	50～ 99
9	17～ 18	材料倉庫で、台車の上の材料を壁に立てかける作業中、アルミの丸棒の束約30kg（長さ3m、1本1.5kg×20本）をしゃがんで中腰で持ち上げようとしたとき、腰にグキッと激痛が走った。	33	11502	10～ 29
9	8～9	第2組立工場ユニットマウント工程にて作業中、フロントサスペンションを両腕で保持して押し上げながらハンガーに吊られた車両に取り付ける際、肩甲骨に痛みが走った。	26	11502	1000 ～ 9999
10	23～ 24	小型CVTケース加工NO5ライン、デブコン作業場（鑄造不良の改修）にて、2人でCVTケースのデブコン修正作業を行っていた。作業テーブルからパレットへCVTケース（10.8kg）1個を両手で持ち、1人で移搬途中に腰に痛みを感じ、しゃがみ込んだ。もう一人の作業者が異変に気づき作業を停止させ楽な姿勢で休ませた。歩行困難となった。	39	11509	1000 ～ 9999
10	15～ 16	当社工場内でH鋼（重さ30kg200×100幅3000mm長さ4800mm）フレーム加工中、H鋼の枠を入れこむため、鉄製の大ハンマー（重さ5kg）を右手で持ち、左手で製品をおさえながらハンマーでたたいていた。その衝撃で	62	11209	1～9

		右手に痛みが生じて被災した。			
10	10～ 11	当社内作業場にて、金型の組み立て・修正の作業中、金型部材をホイストを使ってワイヤ掛けし反転しようとしたところ、ホイスト操作ボタンの位置が高く、ワイヤ掛けの箇所が低かったため、腰を大きく曲げた体勢で作業したところ左肋骨を骨折した。	73	11305	1～9
10	17～ 18	台風による強風で屋上の鉄板屋根（148cm×289cm）がずれて穴があいた状態になり、6階の機械室に雨が吹き込んだ。そのため、職員5人で、この鉄板を元に戻した際に激痛で動けない状態になった。	55	130109	10～ 29
10	17～ 18	台風による強風で屋上の鉄板屋根（148cm×289cm）がずれて穴があいた状態になり、6階の機械室に雨が吹き込んでしまった。そのため、職員5人で、この鉄板を元にもどした際に腰と股関節を痛めた。	55	130109	10～ 29
10	23～ 24	鉄製パレットを組み立てるため保管場所からパレットを手前に動かした際、パレットが被災社員と反対側に倒れたので咄嗟に支えようとして腰を捻った。	54	110101	100 ～ 299
10	11～ 12	機械工場の土間スラブ配筋のため、鉄筋アンカー約600本を道具と足を使い手直しをしていたところ、腰に激痛が走りその痛みで足を滑らせ倒れた。	37	30201	1～9
11	16～ 17	2階警備室横から1階へ下りようとした際、バックルーム階段2階の上から4段目で足が滑って前のめりに転倒し、4段転落した。右踝と右恥骨部位を骨折した。	43	80209	10～ 29
11	14～ 15	当社工場内において材料分別作業時、重なっている鉄板をバールを用いて中腰の体勢で分離中、しゃがんで力を入れたが、見込み重量より重かった為、鉄板が上がらず、腰に負担が掛かってしまい、腰を痛めた。当日はそのまま帰宅したが、翌日から立ち上がることに、歩行が困難になり、病院へは後日に行けた。	60	11305	10～ 29
11	9～ 10	加工センター内の鋼板を移動させる為、玉掛け作業を行うべく、別の鋼板に移動する際、着地に失敗し、足首を捻った。	54	80109	10～ 29



11	16~ 17	テニスコートでフェンス支柱取り替え作業中にフェンス支柱をダンプに積み上げる際、肩に強い痛みを感じ、その後作業を控えた。次の日の朝も痛みが引かない為に通院した。	50	30209	1~9
12	16~17	会社資材置場で年末の片づけ作業中、左前輪がパンクしていたダンプカーのタイヤ交換作業をしていた。なかなかタイヤホイールが外れないため、ホイールの穴に指をかけて外そうとしたところ、無理に力が掛かり右手小指を骨折したものである。	64	30209	1~9
12	16~17	ユニット内にて棚の整理作業中、画鋲が落ちたのに気づかず左足で踏み、痛さでとび上がり、右足に負担がかかり、膝を痛めた。	67	130201	50~ 99

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_08.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_08.html)